HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	国民社会の研究各論　第二章　通巻第十五巻 : 生業活動の組織29
Author(s)	鈴木, 栄太郎
Description	国民社会の研究各論 第3章 : 国民文化の整序 『鈴木榮太郎著作集 7（国民社会学原理ノート）』を出版した際のソースとなった原稿である（同書内での言及による）。
Issue Date	1963-08-08
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/77521
Type	manuscript
File Information	I032_013742729.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

29

FA4

各論コース(3)
K-3

②

第二章

NOTE BOOK

MADE OF FINEST PAPER
PREPARED IN TOKYO

⑳

生業活動の組織

国民社会の研究
各論

第二~~冊~~章

通巻第十五巻

昭和二八年四月廿七日

29

（一）生業の混乱

（二）社会生業

社会生業

常住者と都市

第一、二、三次産業の需給関係

三種産業の[illegible]分布

国内貨物の輸送経路

一貫輸送につい商品別貨物の送り出し

たとえば何人分の生産を村、町、市別に

需要を[illegible]作業化するか

○ どの町にも村にも一定数の生活必需品が商店になければならない。

○ 出産、結婚、病気、死亡等に必要な用具、特殊な[illegible]の存在とどの村にも町にも

衣食住に必要な用具、材料の存在（どこの村にも町にも）

安定した生業存在、生活維持の基本

税金以上の収入の存在

全国生産人口数と就業人口数

失業者統計

國民社会における生業活動の秩序と統一

この問題をかつて社会生業のフランスにおける生業が社会的生業の問題として理解したことがある。最近における対外貿易の急速の成長の為国内における経済生活の封鎖的独立性が甚しく傷つけられ国内は最早や生業活動の統一的秩序は存しないかに見られる。けれども対外的收支は直接国内生業の秩序に混乱~~影響~~を与えることなく

収入の階層、最上より最低

村落と都市の各々につきて生業

構造（業種別、経営階層別）一人ある

（内閣統計局の統計　物価の統計）

収入の勤務時間

職業（業種別）

余暇の時間

生業を通じての近代的活動－政治家、官吏、芸術

家、芸能人、詩人

交通、教養の文化

それはそれ丈として利潤の追及に従事

しているのであって、それは日本の生産経

済の安全な装置と解し得るものである。

この装置を操作するものは日本の

活動の一つである。むしろ日本全体の

ものの係ふ経済活動の一線と考

える事が出来る。

主食の米さえ足らなかった時代に

は東南アジヤの米や砂糖に依存してい

たこともあり、今海外諸国の小麦に

依存しているものもある。衣料は

印度の綿花や濠洲の羊毛

2

に長い間依存していたが、化学セン
イの発達によって今ではセンイにおいて
も日本は国民をまかなって尚ほ余り
がある。精密キカイ、化学製品
は世界の市場に進出している。
世界最大のタンカーが一昨日進水した
と新聞は報じている。
日本の農業は今では世界的である。
にも拘らず海外との收支は常
に政府の手によって調節されている。
国民産業の自然の発展をその
まゝ助長しながら、~~[illegible]~~

世の中の秩序を世のまゝに尊重しながら、海外との交流の必要を国民経済の安全と発展のために絶えず調節しているのが政治である。貿易自由化はその次の段階の一つである。ところが世界の~~世~~世論と共に1934には貿易自由化が始められ、又それと共に3億ドル同額の黒字収支となった。輸入品目は主として原料品であり輸出品目は皆製造品である。日本はもう立派な工業国になっている。

こんなに日本経済の最近の躍進は

4

若しいものがあるのに、なほかつ国民の生業生活に統一と秩序があると云ひ得るか。

国民の生業生活の秩序は烈しく変化しつゝあることはたしかであるけれど烈しい動揺がかへつてどんな盛んでも、それは今までの秩序の上に秩序の中からうつつて行くのに過ぎない。農家の男子が都市の工場や公共団体に俸給勤務者となつて通勤したり移住したりした為、農村を守るのは女子それも中年以上の

女子はかとなく、この代りに女子労働力が機械が次第に使用されるに至り、時間の余裕も出来、消費生活の向上も出来た。一見して男性は全く趣一変した様である。けれども男性における人間関係は生活~~運営の基本的な姿勢は少しも変っては居なかった。~~都市における人間関係も基本的には少しも変っていない。農村の家族では男はこの頃よく外へ出る様になった丈であろう、都市の職場では男女間の対話が増

の組織

しんせいな文である。人の考へ方かかわらず、その名その生き方も変っていくには相異ないが、そんな変化がおこるのはこんな生活をつゞけて行った何十年かの後であろう。

日民アの
地域的階層的
巨富の大小と横
生業的協力と
序

(一)日民階層内の交流
と組織
一元的

地域的には北海道と鹿児島とは直接に生業的協力を伴っていることは見られないが、例へば北海道は東京を鹿児島は大阪と大阪は東京と交流することによつて北海道と鹿児島は協力しているものといふことが出来よう。

又日民の最高所得階層の人と最低階層の人との間にはやはり直接には交流や協力はないと思はれるが、~~最~~両者の中間的存在段階のいくつかの階層を通して両者は交流しているといへるのであろう

交流路線

かくの如き交流の結節の役を果している生業が集まっているところが都市である。その集まっている機能や量によって大中小の都市とよばれている。都市は国民経済における交流の拠点であるともいえる。国民経済における大中小都市の配~~置~~列とその水準の圏域の構成の中に国民経済における都市の生業の機能~~が~~は充分に安定されていると思はれる。

然しはかくの如き生業の機能の安定の為には国民経済における立

9

社会有機体説の修正

流路系の安定した活動が必須である。

動物の体に大動脈から毛細管まで体の全体に血管がよくゆきわたっているように国民経済内にも同様の交流路線が必要である。かって社会有機体説が事実上国民経済内における同様の概念を同じくしますがある。それから約半世紀、社会学は社会有機体説其の進歩を忘れて社会そのものの細胞の分析に集中して来た。そして社会有機体説が

10

予想していた[illegible]は国民[illegible]であって、そこで予想されていた組織や機能は主として国家と云ふ集団の活動であると云ふ事を明らかしてきた。政府が人躰であり、人躰を起点として体内にあまねく血管がゆきわたり、絶えまなく神経なる血液がゆきわたる有機体に異ならぬ。その比喩はまことに巧妙適切である。

[illegible]者は国家丈でなく他にも同様の組織と活動を営む集團がある

を受く、日宗もかくの如き集団の一つである事を明らかにしたのは有機体説のおかげ、新しい発見であって。けれどもこの考え方も依然たる様に最初期は[illegible]時の様に発展すばらしい新理論ではなかった。

有機体論と共に日宗に日宗への関心を出来たきすてた其場合には日宗に対しては外に見るべき遺跡の古さはなかった。

政権上に首都を中心として政思されている日良路線の交流路線の動向を考える時には何として

も有機体説の発想は直ちに思ひ出される考え方である。大中小の血管の何時も毎に細部的な分枝の所在する事、統治の血管に並行して他の様々の文化の血管~~が~~も相ならんで存在する事を私共は学びとる事が出来る。

何よりも重要な事は、言ひ替へて実に色々な生活の基本的な組織や活動にたとへば秩序を与えているものは国家統治の活動であると云ふ事である。[illegible]れが一つの国家活動と国民生活とを統制

する論者の考えでは国民戦争の中では国家の法令は罪ない殺戮破壊敵視されているとする事実を見逃していない。国家に対しても国民務に対して正しい指導すべくところに各人の選択の権利がある。

国民は如何なる生業に従事するも如何なる場所へ生活するも自由である。けれどももし国家統治者のこのまない生業や場所があったとして、それをさける様に経済機関の人がすすめた場合どうしても拒否したとしたなら最ははっとろう

なる点であろうか。多くの場合国民の欲することと統治者の~~欲~~要求することは一致しているか。一致しない場合は統治者は暴力によってその~~欲~~要求することを貫徹するであろう。~~併し一人の独裁者か皇帝か家来~~~~の命令を直接兵隊や軍隊が持たない~~~~わけは命令したりとも實戦いづらく無い~~~~ないかもしれない場合は少い。~~こんな場合は考えればいくらでもある。国民は統治者に反抗したことがあっても所詮負けるにきまっているし勝っても

大した制約はしなかった者であるから口にせぬだけである。諸君の国民は自由を云っても統治者の認めている大きな枠内での自由でそこよりはつれようとは全くおもわぬ故に結果においては国民は国家の定めた道りの道を歩いている。

(一) 生業文化の伝承

昔は父が子に其の生業の実践を共同で行うために家族内で世代的に生業文化は伝承されて行ったが、今では職業的教師が学校で又職場で上役が代父の役を演ずる。

企業における階層の序列は支配の序列に平行し、権力の序列にも関係している。

生業の單位と協力

生業の單位は個人である場合と個人の協力關係である場合とがある。生業の單位は交易の原則に從って協力しているのである。生業によって交易の必要の緊迫度には強弱~~は若干~~の別がある。自給主義の農業が最も緊迫度が弱く、商業や工業給料生活者等は緊迫度が高い。交易は協力であるとの認識の上に社会分業や社会連帯の理解は可能である。貸借や売買が協力であることは當然である。搾取と強奪の

みな協力でない。人間関係に渉る両（六）様

12分類される。

1強奪
2窃盗　一方的現象
3詐取　非協力の

4交易
5貸借（贈与）　相互的現象
6分業　協力

右の内生業における協力は4と5である。4は商業、5はサービス業

工業俸給生活における協力である。

右の六種の人間関係においてレ受授

される対象は物か労役である。

✓（一）生業圏の内部における協力と闘争、生業者のテリトリーの秩序

✓（一）同業者間の競争と協力

において甲より乙に移動するもの又は特定であり、又において移動するものは多数である。

生業者の活動範域は同圏又はサービス圏であるか、それは皆生業の目的合理性によって決定されるものであるが、然しそれは生業者と利用者の協力の作用を認められるが、それと共に同業者のテリトリーの秩序が存している。

同業者間の関係は甚だ微妙であって、より協力者である場合と烈しい対立

又は競争者である場合もある。同業者が相互において甚しく上下の断層あればよい協力者となるのも容易であるが、相互が同等なれば対立競争者の関係が多いであろう。又之これは殊に人間的な関係が存在するので学者生業の関係からのみでは決定し難い。

21

生の上は生業活動の継続に向けはすべきもの

交易の組織

物と労役の買、借、貰の基礎形式（売却 売与）（貸借 貸与）

その前過程には

強奪と詐取の形式がある。

故に基本形式は強奪と~~貰~~贈与の三種であ

その中間には詐取、買、借の三形式

がある。

（都市的 村落的）（合理的 非合理的）

奪、詐、買、借、貰　合法的関係

国家の成立と共に非合法とする

右は我々が現在経験しつつある生活の実際の上に認めなければならぬ社会的形式である。何人もこれを否定し得ぬ事実である。

独占資本主義の全国的活動組織、

又、下請工場の全国的布石。

ている。

国民の富は主として家族を単位として生活の地盤に存して交流しているが、人の能力や社会的価値によって富は偏在する事多くあると共に、ころには蓄積を増加あると云うには窮乏を来

どうして富は偏在しているか。これは困難な問題であるか、私有財産制度が存続する以上、又個人の能力や社会的地位に差異がある以上、永久に存続するものと予想

富は他の富を生ずる力をもっているので富の偏在は止むを得ない。

然し国民はあるがままの

文化の劃一化現象は主として職場、組合、
（学校、寺社、教会、新聞、テレビ、
ラジオ、デパート等）の活動による
ものと思はれる。又家族内の世代的傳承。
職業の交流は商業工業の職場の
活動によるもの

協力の分類
(1) 一、売買交換（交易）（日常品の物々交換）
(2) 一、貸借　信頼、同学、信用
一、雇傭、統治、階級、[illegible]師弟
支配、親分子分
威圧、征服、
(3) 一、共世帯　夫婦　家族
一、集會―交友、
一、支配　統治（他力）親分、雇傭（自力）

ロ 民俗における協力関係の分類
a、職場における協力
（職業における協力）合理的、交換的を主とする
仕事集団従者、通勤集団仕立（小集団）
労資関係（上級下級、支配関係）
分業
b、世帯における協力
（生活における協力）愛情的、非打算的（を主とする）
（親族、友人、知人、隣人
b′ 世帯から世帯へ
C 世帯から職場への関係
交易（購買、又はサービス受給）設備の需
D 職場から世帯への関係
交易（販売又はサービス供給）
賃金や高利貸、土地の利用をも含める
D′ 職場から職場へ（交易的）（再用又は）#
E 支配する者とされる者の間の協力
職場においてのみ見られる
23 F 統治者と被治者間の協力

ム

企業の統轄

事業分割

第一次〜第三次 多数業者の合併

同業統合、~~[illegible]~~階段統合

25

活動

生業生活と交易

自給自足生活は考えられない。

書物での中国人の交易

交易圏の通貨の存在と意義

交易的路線の研究的枠組

通貨、運送、交通

生業の単位

生業の地方的特性

生業と所得、日給と月給

筋肉労働と精神労働

生業協力体における支配と被支配

搾取

第一次産業、第二次産業、第三次産業

一人又は家族生業
少数人生業協力体
百人生業協力体
千人生業協力体
万人生業協力体
商店街組合
協同組合
同業組合
第一次｜第三次｜産業の要務
流行[illegible]